

祝 辞

本日ここに本会創立五周年記念式及び第二回自動車技術会賞授賞式が行われるにあたりましてひとことお祝いのご言葉を申し述べたいと存じます。

顧みますに社団法人自動車技術会は昭和二十二年の春当時は戦後の混乱がなおひどかつたにもかゝらわず工業再建の希望に燃えて立ち上がったわが自動車業界の総意に基いて創立されたのであります。それ以来会の事業は年とともに発展いたし幾多の難かしい成果をあげつゝ早くも五周年を迎え本日この意義ある式典をもつに至りましたことはまことに御同慶に堪えない次第でありますと同時に会の運営にあられた各位の御苦心と終始これに協力された会員各位の御熱意とに対し衷心から敬意を表するものであります。

今や講和発効の日も数日後に迫りましたが内外諸般の情勢は祖国再建の前途のますます多事多難なるを思わしめるのであります。これらの苦難に打ち勝つて独立の実をあげようためにはまず産業の発達にまたなければならずしかもその成否いかんは科学技術振興の速度と程度にかゝっていると申しても過言ではないのであります。しかし従来の実情から見ますれば科学技術振興に最も緊密であるべき事業と研究あるいは業界と学界とのつながりは残念ながら必ずしも円滑適正であつたことはいえないのであります。自動車技術会がいち早くこの盲点を開いて両者の間に強い結合と緊密な協力とを見出しえたことは科学技術界のためまことに喜ばしいことであります。講和成立後のわが国自動車界は欧米自動車の進出によつて少なからず影響を受けることでしようがこれに対抗していくためには一層の研究と努力とが何よりも肝要であると思ひます。今後学界と業界との連けが従来にも増して緊密に行われ科学技術の発展向上に寄与することを切に望む次第であります。かゝる意味合いからも本会の機能に期待するところがまことに大きいのであります。

ここに本会の隆盛を心からお祝い申しますとともに本会が将来ますます発展するよう各位の御尽力をお願いして本日の祝辞に代えます。

文部大臣 天野貞祐

感謝状

本会創立にあたり混沌たる社会情勢下にもかゝらわず終始一貫誠意をもつてよく本会の基礎を確立せられ今日の隆盛を見るにいたりましたことはまことに感激に堪えません。本日ここに創立五周年記念式をあげるにあたり感謝の意を表します。

社団法人自動車技術会会長代理

吉城肇蔚

創立五周年記念式

関係3省の大臣祝辞があり、ついで浅原源七氏、弓削靖氏、三宮吾郎氏の祝辞があり、ひきつゞき創立功勞者として下記の会員が表彰され記念品を贈つた。

第2回自動車技術会賞受賞式

渡部寅次郎委員長の審査経過報告があり、ついで浅原名譽会員の挨拶があり、下記の会員が表彰された。

◎ 石原智男君(東大生研)

流体変速機の特性について(論文)

◎ 大原一男君(トヨタ自工)

鑄造工場現場技術の向上(技術)

◎ 山田正直君(日産)

自動車部品製作加工技術の向上(技術)

創立功勞者

荒牧寅雄	川越庸一	高尾 勤	飯島 博
川田正秋	柘植陽太郎	今村次郎	近藤 博
二宮広意	梅原半二	坂井政夫	長谷川信治
小田部巖	島 治実	肥田一郎	小野盛次
鈴木正一	平尾 収	福川秀夫	堀越二郎
藪 健一	吉城肇蔚		

ついで下記の特別講演があつた。

最近の労働情勢について 鍋山貞親氏

夜の東京探訪バス試乗会

18時より25名の会員が、雨に煙る夜の東京を、美しい所、奇怪な所等々と巡回し21時解散した。

家族慰安会

13時より同所にて約800名が雨にも拘らず参集し、演芸、音楽、映画に打ち興じた。

第1部 演芸 (13:00)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1) 司会漫談 | 三遊亭歌奴 |
| 2) 落 語 | 三遊亭金馬 |
| 3) 漫 才 | 隆ノ家栄竜・万竜 |
| 4) 奇 術 | 松旭斎天洋一行 |
| 5) アクロバット・ダンス | 工藤清子・正子
海東義次 |
| 6) スウィングとジャズ・ソング | ブルーコーツ楽団 |

(休憩)

第2部 映画 (15:00)

- 1) メトロ・ニュース
- 2) スピード王(メトロ映画社製作)

【第3日】

見学会

A 班は35名参集し、NHK 技術研究所を見学、ついで東宝撮影所を見学した。

B 班は65名参集し、日野デーゼル工業株式会社を見学した。